

## 市長就任式挨拶

おはようございます。

先に行われた西尾市長選挙において、多くの皆様方からご支持と負託を賜り、新たな市政運営を担わせていただくことになりました、中村健でございます。

17万市民の生命と財産を守る、使命と責任の重さに、身が引き締まる思いです。

さて、現在の西尾市が置かれている状況を見ますと、多くの難題が横たわっていますが、市長として、みなさんにまずお伝えしたいことは、思いを一つにして、ONE西尾、市民も一体となった「チーム西尾市」を創っていきたいということでもあります。

「思い」というのは、言うまでもなく、市民の福祉向上のため、西尾市の発展のためということであり、タイムリーな言い方をすれば、市民ファーストを心がけてほしいということです。

そして、この場をお借りし、そのための具体的な指針として、職員のみなさ

んをお願いしたいことが三点あります。

一点目は、物事を決めつけないということ。

例えば、政策を立案していく際に、その方法が唯一の正解だと思い込んでしまつと、その時点で思考停止に陥ります。

もっといい方法があるのではないかという柔軟な姿勢で、情報のアンテナを常に鋭く張り、たくさんの意見に耳を傾けてほしいと思います。

これは、人間関係についても同様のことがいえます。

人間という生き物は、とかく他人にレッテルを貼りがちですが、この人はこういう人だと決めつけてしまつては、本質を見逃します。

余計な先入観を持つのではなく、公平・公正な態度で、その場その場における生の印象を大事にしてください。

また、レッテルを貼ることは、排除の論理に繋がります。

職員も市民も一体となった、「チーム西尾」を目指していくわけですから、つまらないレッテル貼りはやめましょう。

二点目は、「伝える」ことよりも「伝わる」ことを意識するということ。

特定の情報について、自分としては十分に伝えているつもりでも、それが市民のみなさんに思うように伝わっていない、という経験がある方も多いのではないのでしょうか。

同じ情報を伝えるにしても、会って直接伝えるのか、電話で伝えるのか、郵便で送って文書で伝えるのか、インターネット上にアップロードして伝えるのか、情報伝達手段によって伝わり方は大きく異なります。

また、言葉の使い方や、情報を伝える前提となる人間関係によっても、伝わり方は大きく異なってきます。

ここを上手く意識できないと、市民との信頼関係は築けません。

身近で頼りになる市役所だと思っていただけよう、市民に対し、送り手の独り善がりにならず、受け手の立場に立った、「伝わる」ことを重視したコミュニケーションを常に心がけてください。

同様に、職員間でのコミュニケーションについても、「伝える」ことよりも

「伝わる」ことを意識することで、良好な人間関係、良好な職場環境に繋がるものと考えます。

三点目は、自分の意見をしっかり述べる気概を持つこと。

組織としての一員である以上、決まったことには従ってもらわなければなりません。物事が決まる過程における議論というものを大事にしてください。

現場に近い職員だからこそ分かること、管理職員だからこそ分かること等あると思います。

一人で考えるのではなく、様々な意見をぶつけ合うことで、アイデアはブラッシュアップされます。

それぞれの立場から、思ったこと、感じたこと、考えたことを積極的に意見として述べる気概と、自分とは異なる意見でも、それを受け止め、前向きに議論できる度量を持ってほしいと思います。

単なるイエスマンは、西尾市には必要ありません。

以上、具体的な指針をいくつか示しましたが、市政運営の要となるのは職員であり、みなさんが気持ちよく、持てる力を存分に発揮できるよう、私も市長として誠心誠意取り組んでまいります。

最後に、選挙時に訴えてきた、「市民の声が届く市政」、「未来にツケをまわさない市政」の実現に向け、全身全霊を注ぐ覚悟でおりますので、職員のみなさんのご理解とご協力を切にお願いし、市長就任の挨拶とさせていただきます。

思いを一つに、市民も一体となった「チーム西尾市」を一緒に創ってまいりましょう。

4年間、どうぞよろしく申し上げます。